

## 温度管理が「とちあいか」の先つまり果等発生や収量に及ぼす影響

### 要約

厳寒期の午前中の温度管理を 28℃（対照区）から 26℃（供試区）にしたところ、3月に先白果の発生が供試区で少なくなったが、他の要因も考えられ、処理の影響は判然としなかった。

### ○ 展示のねらい

とちあいかは、先つまり果や先白果などの障害果が発生する。そこで、温度管理がこれらの障害果の発生程度に及ぼす影響を検証した。

展示内容 2ハウスを用いて、12月20日から2月6日までの自動換気の設定温度を変更

供試区 午前中 26℃ 午後 22～23℃

対照区 午前中 28℃ 午後 22℃

### ○ 主な成果



図 温度とCO2濃度の推移（1月7日）

表 先つまり果と先白果の発生推移（各区ごとに60株調査、発生株率で表記）

	2月14日		3月25日		4月22日	
	先つまり果	先白果	先つまり果	先白果	先つまり果	先白果
供試区	1.7%	3.4%	1.7%	1.7%	3.4%	8.3%
対照区	1.7%	3.4%	6.7%	46.7%	3.4%	6.7%

- ・ハウス内の温度は、供試区が対照区と比べて、日中の温度が2～3℃低く推移した（図）。
- ・3月25日の先白果の発生は、対照区が明らかに多かった（表）。しかし、2月6日で温度処理を終えていること、展示農家の展示ハウス以外（設定温度は対照区と同じ）でも先白果の発生が少ないハウスもあり、効果が判然としなかった。

### ○ 今後の方向性

- ・とちあいかの先白果は、まだ要因が解明されていないことから、引き続き、調査が必要。

実施機関：芳賀農業振興事務所経営普及部 実施場所：真岡市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315